

# 医療の常識 平成で変わる

広島県内の医師3人に聞く

病気の治療法や健康に関する常識は、時代とともにダイナミックに変わってきた。平成の30年間にも、さまざまな分野で大きく進歩した。令和時代の始まりに当たって広島県内の医師に、医療の進化を振り返ってもらった。

(鈴木大介、衣川圭)

## ピロリ菌と胃がん



広島大病院消化器・代謝内科  
伊藤 公訓 診療教授 55

### 除菌で予防できる病気に

日本人のがんの中でずっとトップの患者数だった胃がんは、平成時代に予防のできる病気に変わりました。世界保健機関(WHO)が1994(平成6)年に、ピロリ菌が胃がんの原因と認定、ピロリ菌を抗生剤などでやっつけると、胃がんになる可能性が格段に低くなるのです。ピロリ菌は5歳くらいまでに感染。胃の粘膜にすみ着いて慢性胃炎を引き起こします。進行するとがんになります。戦後は、井戸水からの感染が中心でした。

衛生状況がよくなった現在は、若者の感染率が下がっています。大学生で6%ほど。今、多いのは赤ちゃんへの食べ物の



ピロリ菌の電子顕微鏡写真

口移しなどを介した感染と考えられています。感染期間は短いほど胃への影響が少ないので、早めの除菌を勧められています。2013年からは慢性胃炎の人の除菌が保険適用になりました。佐賀県では中学校での検尿で陽性者を拾い上げ、除菌しています。薬の副作用を懸念する意見もありますが、がん予防の効果は大きいと思っています。一つのがん細胞が胃がんになるまで多くの場合10〜20年。令和時代には、いよいよ除菌の成果も表れ、胃がんの発症者は劇的に減ってくるのではないのでしょうか。

中国新聞の許諾を得ています

掲載日時 2019年5月1日